

日刊 人吉新聞

発行所
人吉新聞社

〒868-0072人吉市西間下町112-3
電話(0966)24-2111(代)
FAX(0966)24-2113(代)
(HP) www.hitoyoshi-sharepla.com
(☒) daihyou@hitoyoshi-press.com

人吉海軍航空隊 基地跡整備 平和の希求へ (上)

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表 高谷 和生



別称は「高原飛行場」

人吉海軍航空隊飛行場は、球磨郡相良村・錦町に所在し、地元では高原飛行場の別称を持ちます。

昭和19年2月1日、人吉海軍航空隊として第十八連合航空隊に所属し発足。

基地設営は、佐世保施設部鹿屋支部出水地方施設事務所人吉出張所内の施設部が担当しました。第二代田中千春人吉海軍航空隊長の回想録では「練習航空隊の施設というよりも、完全な計画の下にできた航空基地に、さしあたり練習航空隊が陣取ったとみるのが本当だった



人吉海軍航空隊の記念碑

当初は、練習・整備教育隊に指定。乙飛整備術練習生の第1〜9期まで整備技術訓練を行い、鹿児島に水分遣隊を置きました。同年3月には第二十二連合航空隊に編入され、整備練習生訓練は中止し、本土防衛協力をし、その後は簡易兵器、松根油製造、爆弾

ろ」と示されています。滑走路は全長1350m、幅50m、郡内から連日奉仕作業隊が動員され、造り上げた県内では唯一の全面コンクリート舗装で、現在は全て撤去されています。

運搬用木箱製作、諸自活作業を行いました。峯山海軍航空隊「飛神隊」をはじめ、各地の操縦訓練や飛行機疎開等を受け入れ、同年7月10日に解散。敗戦時には中練機特攻部隊が近郊の錦



高原の慰霊碑



魚雷調整壕の内部

町木上集落に分宿し、8月15日の敗戦を迎えます。同20年2月18日、5月14日の両日に米艦載機による空襲を受け、民間人4人も含め大きな被害を受けています。軍による用地接収、地域住民の奉仕、民間人も含めた空襲被害と敗戦による混乱、県内各地の飛行場の歴史には「加害と被害の歴史」が凝縮されています。

(続く)

～執筆者紹介～

高谷 和生…別府大学卒。くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表・事務局長。後世に平和の大切さを伝える観点から熊本県内の戦争遺跡に焦点を当て、記録や検証活動などを続ける。あさぎり町の戦争遺跡「掩体壕」調査も手掛け、ことし3月には、同町教育委員会発行の「陸軍人吉秘匿飛行場跡 木製有蓋掩体壕跡の埋蔵文化財発掘調査」を編集、執筆。玉名市立願寺在住。(たかたに・かずお、62歳)。